



成果指標				
成果指標	相談件数(支給決定になった件数も含む)			
指標設定の考え方	申請の結果、支給に至らないケースや支給要件に該当しないケースもありえるので、支給件数ではなく、制度の周知という面も考慮して相談件数の純増を指標とする。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標28年度
目 標	5	5	5	5
実 績	2	2	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	公共交通機関が充実していない地域では、自家用車による移動をせざるを得ないところも多い。その中には、障がい者自らが運転することも多くみうけられる。このため、必要な事業である。事前に相談することを周知徹底したい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	新規に自動車改造を申請する方は少なく、重度の下肢障がい者で、車の買い替え時期に合わせて、改造申請を行い、機能性の高い車で、社会参加が促されている。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題